



# 信濃小中学校だより そよげわか竹

## 信濃町の『有名』をもっと広げていこう！ ～地域の素材にかかわる三年生の取り組み～

信濃町のもろこしって  
おいしいんだ

「信濃町」のもろこしを遠くがたくさんいるんだよ」と話した時の子どもたちの反応は「え〜!」でした。夏には、ほぼどの家庭にもあり、おいしくて当たり前のものもろこし。信濃町に暮らす子どもたちだからこそ、信濃町の有名な物を知り、それを自慢に思っていてほしい。「畑で作ったものこしで料理をして、いろんな人に食べてもらおう!」こうして三年一組の「わか竹(総合的な学習の時間)」はスタートしました。



上：自分たちで畑作り  
下：もろこしの先生に教わって



新鮮なもろこしを冷凍保存するぞ

たくさんいただいたいたもろこしのたねを、学校の畑にまいてみたものの、場所が足りません。これではいろんな人に食べてもらえない…。どこかに場所はないかと探していると、学校の近くの方が畑を貸してくださいとのこと!大喜びでお礼を言いに行きました。  
畑が広くなったのはうれしいけれど、雑草は容赦なく生えてきます。暑い日も汗だくになりながら、もろこしのために草取りをがんばりました。  
そんなみんなのがんばりで、売り物にしてもはずかしくない位の立派なもろこしが実りました。採れたてを味わいつつ、パンパンに膨らんだ黄色い実を冷凍保存しておきました。

「おいしい!」と言って  
もらえるように

二学期になり、自分たちが収穫したもろこしを調理して食べてもらう活動が始まりました。まずは自分たちでコンソープ作りに挑戦です。やはり自分たちで作ればおいしいのは当たり前。満足しつつ、おうちの方にも試食をお願いしアドバイスをいただきました。  
今後は、プロの料理を食べさせていただいたり修業させていただいたりしながら、「三年一組の店」を開き、多くの人に信濃町のもろこしのおいしさを伝えていけるように計画中です。



畑の隣のお気に入りの場所で

### 一茶さんに思いを重ねて

8月31日(土)、三年二組は「黒姫童話館」で「一茶ものがたり」の発表を行いました。このお話は、黒姫童話館初代館長だった高橋忠治先生が書かれた作品です。年度当初、地元で愛される「一茶さん」に取り組んでみたいと考え、「一茶ものがたり」を取り上げることにしました。国語の時間にはお話を読み込み、一茶さんの生涯を知るとともに、一茶さんに自分の気持ちを重



発表を終えて



どうすれば伝わるかな

ねる学習を行いました。音楽の時間には、「一茶ものがたり」で使われる曲を取り上げ、気持ちをどう入れて歌い上げるか、を考え合いました。  
二学期には、一人一人の子どもが、役割の中で、劇化や演技の工夫に取り組みました。さらに、演技が深まりを見せるにつれ、「一茶ものがたり」を支える人たちの思いにも触れる機会が増えてきます。高橋先生はもちろんのこと、作曲の吉本隆行先生や、演奏と一緒に参加して下さる末高

明美先生、子どもたちの思いに合わせ、シナリオを考えてくれた藤澤直子先生をはじめ、声をかけアドバイスを下さった多くの先生方。自分たちが取り組んでいることは素晴らしいことなんだ、ということをお人のかかわりの中で、確かめていくことができました。  
そうして迎えた発表当日。お家のみなさんのもとより、他の学級・学年のみなさんや、童話館を訪れた観光客の方など、多くの方に見ていただきました。終わった後の子どもたちの清々しい笑顔、観客席の真剣な応援の眼差し、涙を浮かべるお客さんの姿、等々。みんなの気持ちが一つに集まっていく、そんな時間が流れていきました。



思いをこめて



気持ちを一つにして



堂々と歌い上げる